

## 資料配布の場所

1. 国土交通記者会
  2. 国土交通省建設専門紙記者会
  3. 国土交通省交通運輸記者会
  4. 横須賀市政記者クラブ
- 令和5年5月18日同時配布

## 国総研資料第1242号 「造成干潟の基盤材として有効活用した浚渫土砂中の 有機炭素の残存率に関する基礎調査」を刊行します

地球温暖化に対する緩和策として温室効果ガスの削減は重要な課題です。そこで完成から17年が経過した造成干潟において、造成材に活用した浚渫土砂に含まれる有機物の残存率を調査しました。本調査の結果、有機炭素の残存率は82%と推定されました。浚渫土砂を造成干潟の基盤材として活用することは、炭素を効果的に貯留できる可能性が示されました。

## &lt;目次&gt;

- 第1章 はじめに
- 第2章 方法
  - 2.1 造成干潟の諸元
  - 2.2 現地調査
  - 2.3 土質試験
  - 2.4 化学分析
  - 2.5 堆積物中の強熱減量と全有機炭素の関係
- 第3章 結果と考察
  - 3.1 鉛直試料の土相、粒度分布および中央粒径
  - 3.2 含水比・ORP・有機物の鉛直分布
  - 3.3 浚渫土砂中の有機炭素の残存率
  - 3.4 浚渫土砂により貯留された炭素量
- 第4章 浚渫土砂の有効利用による炭素貯留に関する今後の展望
- 第5章 結論

本資料は、国総研ホームページで公開しています。

ダウンロード先URL：<http://www.y.sk.nilim.go.jp/kenkyuseika/pdf/ks1242.pdf>

## (問い合わせ先)

国土技術政策総合研究所 港湾・沿岸海洋研究部 海洋環境・危機管理研究室

主任研究官 内藤 了二 (内線：3212)

TEL：046-844-5019 E-mail：ysk.nil-46pr@gxb.mlit.go.jp